

定時評議員会承認済

令和 2(2020)年度 事業報告

令和 2年 4月 1日から

令和 3年 3月 31日まで

公益財団法人 日本尊厳死協会

東京都文京区本郷二丁目 27 番 8 号

日本尊厳死協会の活動目的

日本尊厳死協会は、「終末期における医療の選択の権利を守ることができる社会の実現をめざして、リビング・ウィルの理解と普及をはかり、ひろく市民の人権の確立とその尊重に寄与する。」という基本的な考えを実現するための活動を推進しています。

I.事業の総括

令和2(2020)年度事業計画に則り、実施した内容を以下に報告する。

1.普及啓発事業

- (1) 人生の最後段階をどう過ごすのか、本人の希望を周囲が正しく受け入れられるよう、「リビング・ウイル」の必要性を説く活動は、新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う緊急事態宣言、外出自粛要請による活動自粛により大変厳しい結果となった。令和2年度の講演会、セミナー及び出前講座は、回数が62回、参加者数が636名(前年度は開催数199回、参加者数8,067名)であった。このような環境下の中、オンラインでの普及・研究活動も始まった。
- (2) 受容協力医師の年度末登録数は2,012名、前年度に比べ24名増で、事業計画の2,393名には届かなかった。
- (3) リビングウイル医療電話相談の集計(令和2年4月～3年3月)がまとめ、受電件数は557件(相談内容1,313件)、(前年度は、受電件数500件、相談内容1,182件)であった。今年度の傾向は、コロナ禍が長引きメンタル面の相談が増えてその対応をしたことであり、医療電話相談の存在意義、重要性はさらに高まった。なお、本内容は会報7月号に掲載する。

2.登録管理事業

年度末登録会員数は100,645名で、前年度に比べ5,563名減少した。新規入会者数は、2,664名(前年度は5,274名)で2,610名減少、一方の退会者数は、8,227名(前年度は8,221名)となり、会員数減少には歯止めがかけられず大変厳しい状況となった。

3.調査研究及び提言事業

- (1) 本部と2支部で、「日本リビングウイル研究会」が開催され、本部と四国支部はオンラインでの開催に切り替えた。
- (2) 外部有識者と協会役員からなる「リビングウイル検討委員会」の答申が3月開催の理事会でされた。答申の内容は、定款改定、リビング・ウイル改定及び協会の今後の戦略(理念の普及啓発のための戦略・戦術)等で、次年度の理事会から議論を開始する。
- (3) ご遺族アンケートの集計(令和2年1月～同年12月)がまとめ、回答者は675件、リビング・ウイルが役に立ったと回答したのがそのうち95%(前年度は、640名の回答、役に立ったとの回答が94%)であった。なお、本内容は、4月号に掲載する。

4.管理部門

- (1) 11月28日の理事会で「ウイズコロナ時代の法人組織の見直し」の付議が承認された。支部の固定費の見直しの部分については、九州支部が令和3年3月末で事務所を解約

し、北海道支部が同年6月末で、事務所解約を予定している。

(2) 寄附金の税法上の優遇処置

所得税は、令和2年7月13日付で「税額控除」、「褒章条例に基づく公益団体」は、同年8月12日付で、それぞれ認定を受けた。

(3) 収支決算

財務面では、令和2年度経常増減額予算では2,048万円の赤字と策定したが、実績値は、収益面では大口寄付、費用面では新型コロナウイルス感染予防活動の自粛等により、経常増減額は1,370万円の黒字となった。

II. 事業活動

1. 普及啓発事業

市民への「リビング・ウイル(終末期医療における事前指示書)」の普及啓発と適正な理解を深める事業

(1) リビングウイルの普及啓発

① 普及活動

新型コロナウイルスの感染拡大防止対策に伴う緊急事態宣言や不要不急の外出自粛等により、活動が大きく停滞した。年間開催数は、62回、636名(前年度199回開催、8,067名)と激減したが、一方で、Webでの活動に切り替えて開催する支部もでてきた。支部別、項目別実績は下表のとおりである。

<令和2年度累計開催・累計参加者一覧>

(単位：名)

項目	講演会		セミナー等		出前講座		02年度計		31年度計		前年 参加差異
	回数	参加	回数	参加	回数	参加	回数	参加	回数	参加	
北海道	1	48	3	43			4	91	32	2,210	▲2,119
東北			3	19	1	4	4	23	9	761	▲738
関東甲信越	1	76	21	137	6	152	28	365	71	1,568	▲1,203
東海北陸	1		2	8	1	12	4	20	16	395	▲375
関西	1				1	15	2	15	25	398	▲383
中国地方									9	258	▲258
四国	3	70			2	38	5	108	22	681	▲573
九州	1				2	14	3	14	15	1,796	▲1,782
計	8	194	29	207	13	235	62	636	199	8,067	▲7,431

※令和2年度予算は、講演会35件、セミナー151件、出前講座106件で292件である。

※講師派遣は、出前講座を含む。

<上述に含まれる Web での活動>

組織	分類	イベント名	補足
関東甲信越	セミナー	オンラインサロン	年7回
	セミナー	オンラインセミナー(ミニ講演会)	年1回
東海北陸	講演会	Web 講演会	年1回
関西	講演会	Web 公開講座	年1回
四国 香川県組織	講演会	リビングウイル香川懇談会	年1回、Web と会場の併用
四国 愛媛県組織	講演会	第22回コムズフェスティバル	年1回、スタジオ収録
九州	講演会	オンライン市民公開講座	年1回
九州 長崎県組織	講師派遣	患者の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会	年1回

- ② 活動結果は、月次単位で支部長や出前講座担当者へ情報連携され、新たな普及啓発先の開拓や手法の生み出しに反映している。毎号の会報内の支部活動・報告欄には、「リビングウイル「出前講座」はいかがですか」の広報を掲載し、依頼を呼び掛けている。
※別添資料・・・令和2(2020)年度支部事業報告

(2) 受容協力医師

- ① 受容協力医師数は、ご遺族アンケートによるご紹介等により、前年度に比べ24名増員となったが、事業計画の2,393名には大きく届かなかった。
- ② 会報の毎号に、新受容協力医師の氏名、「LW 受容協力医師をご推薦ください」との広報を掲載している。また、ホームページの支部ページでは、支部別に登録されている受容協力医師の氏名が閲覧できる。

<受容協力医師登録数>

(単位：名)

支部	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	2年度	前年差異
北海道	55	55	77	77	80	80	—
東北	55	58	57	58	57	65	8
関東甲信越	442	514	615	648	647	651	4
東海北陸	100	122	161	164	165	167	2
関西	119	137	143	145	144	149	5
中国地方	60	64	101	204	250	249	▲1
四国	387	381	382	376	371	364	▲7
九州	132	187	245	255	274	287	13
合計	1,350	1,518	1,781	1,927	1,988	2,012	24

(3) 会報

- ① 会報は、年4回の発行を継続した。今年度から、著名人との会報インタビューは、同時に動画としても撮影し、ホームページでも閲覧できるようにした。
- ② 会報のバックナンバーは、ホームページにて公開中。
- ③ 令和2年度の各号の主な記事は次の通りである。

掲載月	会報号	会報『Living Will』の主な記事
令和2年 4月号	No177	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー 柳田邦男さん (ノンフィクション作家) －人生の最終章は自分で書く－ ・2019年「ご遺族アンケート」の結果 ・LWのひろば ・支部活動・報告 ・電話・メール医療相談から③ －「点滴を外してあげたい」のですが－
令和2年 7月号	No178	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー 篠田節子さん (作家) －「絶好の死に時、があるのではないか－ ・公益法人の認定を受けて －終末期に至る自己決定を「幸福追求権」ととらえ－ (岩尾理事長) －公益法人までの10年の道のり－2回の公益認定申請と一審、控訴審を経て－ (友納理事、土肥法律事務所・弁護士) ・LWのひろば ・20年度事業計画・予算決まる －公益法人として新たなスタート－ ・支部活動・報告 ・電話・メール医療相談から④ －倒れた夫の気管切開を勧められていますが－
令和2年 10月号	No179	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急対談 岩尾総一郎理事長、北村義浩理事 －コロナ禍と尊厳死－ コロナ禍で増す「自分の意思を残す」重要性 ・ALS患者に対する嘱託殺人事件報道に関する日本尊厳死協会の見解 ・LWのひろば ・支部活動・報告 ・第9回 日本リビングウイル研究会 テーマ パンデミックと尊厳死

		<ul style="list-style-type: none"> —新型コロナウイルス、命の選別、トリアージ(治療の優先順位)などをキーワードに— ・電話・メール医療相談から⑤ —抗がん剤治療を続けるべきか中止すべきか—
令和3年 1月号	No180号	<ul style="list-style-type: none"> ・年頭所感 岩尾総一郎理事長 —次の半世紀に向け動画配信、「歩み」のまとめ、調査研究活動— ・インタビュー 蟹瀬誠一さん(ジャーナリスト) —尊厳死の議論の場をもっと!— ・第9回日本リビングウイル研究会(オンライン会議)の報告 —テーマ パンデミックと尊厳死— ・LWのひろば ・支部活動・報告 ・長尾和宏尊厳死協会副理事長が原作・医療監修 映画『痛くない死に方』が今春公開 ・電話・メール医療相談から⑥ —味がなかったのでコロナ感染症では?—
令和3年 4月号	No181号 (抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年「ご遺族アンケート」の結果 —リビング・ウイルは「生き方」の宣言でも…—

④ 会報 2021年4月号(No181号)の付録として、協会設立45周年記念誌「歴史と役割」の小冊子を同封した。次の半世紀に向けた準備として、これまでの協会活動の歩みをまとめたものである。

(4) メルマガ通信

- ① 会報の定期便配信は、新規会員増とともに配信登録件数が順調に増加している。残念ながら、メルマガの内容が会報に留まり、多様性を図ることができていない。
- ② 既存会員の配信数を増やすため、会報4月号(No177号)と7月号(No178号)に、「メール配信登録のご案内」を掲載した。

<メルマガ発信数>

(単位：件、%)

発信日	配信登録件数	成功数	失敗数	成功率
02年6月(178号)	6,246	6,112	134	97.9
02年9月(179号)	6,530	6,404	126	98.1
02年12月(180号)	6,598	6,489	109	98.3
03年3月(181号)	6,785	6,694	91	98.7

(5) ホームページ

- ① 本部では、リビングウイルの医療選択に関わるメディア情報や日本リビングウイル研究会情報を、支部や県組織は、講演会等普及啓発に関わる情報をタイムリーに更新した。
- ② 緊急事態宣言や外出自粛要請による協会活動停滞の代わりとして、協会理事、支部長及び支部理事による動画配信をスタートさせた。

(6) 書籍

- ① 令和2年度の新刊はなかった。電話医療相談として蓄積された質問とその回答をとりまとめた書籍「日本尊厳死協会の医療相談 Q&A」(仮)は、ブックマン社が刊行、協会が監修することとなり、2021年度の刊行を目指す。
- ② 書籍販売収益は、「リビングウイルノート」の販売が好調により収益的にも貢献した。

<書籍販売リスト>

(単位:部数、円)

タイトル	販売部数	金額
LW ノート	1,169	1,269,732
新・私が決める尊厳死	192	210,300
あなたの痛み	46	50,100
LW ガイド	31	6,200
DVD ーいのちの遺言状ー	6	6,600
その他	18	12,166
計	1,462	1,555,098

- ③ 「リビングウイルノート」販売に併せ、支部が計画していた「リビングウイルを学び、ノートの記載の仕方をレクチャーする講義」は、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

(7) 電話、メール医療相談

- ① 本部の看護師が市民からの専門的な医療相談からリビングウイルに関わる多様な迷い悩みをお聴きし、共に考え、助言し支援する活動を行っている。受電件数は、557件(相談件数 1,313件)であった。令和2年度の相談件数と内容は、会報 No182号(令和3年7月)に掲載予定である。
- ② 会報各号では、電話・メール医療相談内容から抜粋した質問・対応を掲載した。

<医療相談の内容>(相談1件につき複数の内容項目がある)

(単位:件、%)

順位	相談(大分類)	相談(小分類)	件数	合計	比率
1	尊厳死医療相談	①意思疎通・カード提出のタイミング ②現病と治療内容 ③延命措置(人工呼吸器・栄養・補液・薬剤) ④尊厳死に関するメンタル ⑤救命医療と尊厳死 ⑥セカンドオピニオン	165 162 144 66 60 7	604	46
2	メンタル	①日常の悩みや不満 ②精神疾患(医療機関受診中)	155 104	255	19
3	一般医療に関する こと	症状・治療・薬について	217	217	17
4	医療機関・施設情 報・その他の相談	①受容医 ②その他の医療機関 ③施設	49 44 24	117	9
5	協会に関すること	①LW やカード等事務的なこと ②協会へのご意見	86 18	104	8
6	その他		16	16	1
	計		1,313	1,313	100

<会報掲載の内容>

会報発行月	ケース
2020年4月発行No177号	「点滴を外してあげたい」のですが…
2020年7月発行No178号	倒れた夫の気管切開を勧められています…
2020年10月発行No179号	抗がん剤治療を続けるべきか中止すべきか
2021年1月発行No180号	ともにコロナ禍を乗り越えましょう

(8) 支部長会議

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言や不要不急の外出自粛要請等により、従来の集合会議ができず、計2回 zoom にて情報交換を行った。

- ① 日時：令和2年9月25日(金) 14:00～15:25
参加：7支部(東海北陸支部は不参加)
内容：支部の運営・活動状況及び情報交換
- ② 日時：令和2年12月16日(金) 13:10～14:10
参加：8支部(全支部)

内 容 : 法人業務の見直しによる(理事会決議)趣旨説明

(9) 出前講座担当者会議

担当者会議は、6月を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により中止とした。

2. 登録管理事業

会員自らの終末期意思を書面で表明した「リビング・ウイル(終末期医療における事前指示書)」の登録と管理を行う事業

(1) 会員情報

令和2年度は、新入会が2,664名(前年度5,274名)、退会等が8,227名(前年8,221名)で、対前年比で5,563名(前年2,947名)と大きく減少した。

<会員種別の年度別推移>

(単位:名)

項目	28年度	29年度	30年度	31年度	2年度	前年差異
正会員	36,464	39,669	44,150	47,237	47,437	200
夫婦会員	33,190	32,114	30,100	27,940	25,676	▲2,264
終身会員	4,361	4,502	4,566	4,646	4,694	48
減額会員	38,382	33,875	30,339	26,385	22,838	▲3,547
合計	112,397	110,160	109,155	106,208	100,645	▲5,563

<支部別会員数推移>

(単位:名)

項目	31年度	新入会	退会					2年度	対前年
			死亡	退会	3年未納	調整	退会計		
北海道	5,332	123	141	96	202	▲16	423	5,032	▲300
東北	3,405	86	74	52	118	▲17	227	3,264	▲141
関東甲信越	59,376	1,530	1,669	1,112	1,944	▲175	4,550	56,356	▲3,020
東海北陸	9,968	196	233	191	396	▲30	790	9,374	▲594
関西	15,504	411	398	310	555	▲55	1,208	14,707	▲797
中国地方	3,107	93	97	63	113	▲5	268	2,932	▲175
四国	1,990	35	51	34	75	▲4	156	1,869	▲121
九州	7,526	190	168	144	318	▲25	605	7,111	▲415
計	106,208	2,664	2,821	2,002	3,721	▲327	8,227	100,645	▲5,563

※令和2年度予算は、6,625名

※31年度実績 109,155 5,274 2,617 1,838 3,790 ▲24 8,221 106,208 ▲2,947
 ※30年度実績 110,160 6,243 2,563 1,752 2,963 ▲30 7,248 109,155 ▲1,005

※調整とは、会員の引越等による誤差

<新規入会者年齢別構成>

(単位：名)

年齢	31年度		2年度	
	入会者数	構成比(%)	入会者数	構成比(%)
10代	0	0.0	0	0.0
20代	21	0.4	10	0.4
30代	39	0.7	22	0.8
40代	177	3.4	108	4.1
50代	461	8.7	274	10.3
60代	1,069	20.3	494	18.5
70代	2,089	39.6	1,033	38.8
80代	1,272	24.1	668	25.1
90代	144	2.7	55	2.1
100代	2	0.0	0	0.0
総計	5,274	100.0	2,664	100.0

<5年毎の新規入会者の平均年齢>

(単位：歳)

入会年度	男性会員	女性会員	平均年齢
1976年～1980年	57.7	55.8	56.8
1981年～1985年	63.9	61.4	62.5
1986年～1990年	64.6	63.2	63.7
1991年～1995年	64.2	63.2	63.5
1996年～2000年	66.7	65.9	66.2
2001年～2005年	68.9	68.5	68.6
2006年～2010年	70.4	69.8	70.0
2011年～2015年	72.2	71.6	71.8
2016年～2020年	72.2	71.4	71.7

(2) 終身会員への会員継続意思確認の実施

公益法人化での東京高裁判決において、終身会員の会員継続意思確認に改善余地ありと指摘を受けたこと、さらに会報が宛先不明で戻るケースが多くなったことから、会員の継続意思確認、会員証・尊厳死の宣言書の所持状況及び現住所確認作業を行った。終身会員

架電対象者 3,551 件に対し、86.9%の継続意思の確認ができた。

<意思確認集計(11月12日現在)>

(単位：名、%)

支部	確認済	死亡	退会	解明計	解明不可	合計	解明率
北海道	98	8	1	107	17	124	86.3
東北	80	6	2	88	14	102	86.3
関東甲信越	1,693	136	12	1,841	243	2,084	88.3
東海	239	26	3	268	37	305	87.9
北陸	41	5	0	46	6	52	88.5
関西	359	29	1	389	70	459	84.7
中国地方	87	9	2	98	18	116	84.5
四国	63	8	1	72	11	83	86.7
九州	166	10	2	178	48	226	78.8
計	2,826	237	24	3,087	464	3,551	86.9

(3) 会報等新規返戻者の住所解明報告

- ① 会費3年未納による退会（移転先住所不明、会費3年未納による退会）が多くなり、初期段階からの解明が必要となり、会費等新規返戻者を対象に移転先住所解明を行った。解明率は、7月22.1%、10月号が21.1%で、初段階から連絡がとれないことが判明した。
- ② 毎号の会報に、「住所を変更された場合はお知らせください」の記事を掲出し、会員への呼びかけを実施した。

<解明結果>

(単位:件数)

年月	解明				解明不可					計	解明率 (%)
	解明済	死亡	退会	解明計	コールのみ	電話不使用	電話登録無	非居住	未解明計		
7月号	40	3	10	53	41	131	6	9	187	240	22.1
10月号	44	12	3	59	42	167	10	1	220	279	21.1

(4) 口座振替件数の推移

会費の入金経路別では、コンビニや口座振替が前年度増、郵便局利用が減少した。毎号の会報に「会費の自動払込のご案内」を告知した効果がでている。

<年会費入金経路> 令和3年3月31日現在

(単位：件、%)

請求月	払込件数	(内訳) コンビニ	(内訳) 郵便局	(内訳) 口振	(内訳) 銀行等	コンビニ 率	郵便局 率	口振 率	銀行 率
2.4	17,335	9,452	7,022	609	252	54.4	40.5	3.5	1.5
2.7	13,973	8,135	5,062	589	187	58.2	36.2	4.2	1.3
2.10	12,832	7,451	4,606	614	161	58.1	35.9	4.8	1.3
3.1	12,952	7,513	4,637	594	208	58.0	35.8	4.6	1.6
計	57,092	32,551	21,327	2,406	808	57.0	37.4	4.2	1.4
31年度実績	59,045	31,995	24,297	1,968	785	54.2	41.1	3.3	1.3
30年度実績	60,216	31,787	26,300	1,504	625	52.8	43.7	2.5	1.0

(5) WEB 入会システムからの入会者拡充

WEB 入会は、前年度より 70 名増加した。50 代～70 代の入会が多く、徐々に若年層入会の効果がでていいる。今後も拡充する必要がある。

<WEB 入会システム入会者数>

(単位：名、%)

年代	年度別入会者数				入会者数累計			
	2017	2018	2019	2020	正会員	終身会員	計	構成比
10代		1			1	0	0	0.1
20代	1	5	5	7	18	0	18	2.1
30代		10	13	10	33	0	33	3.8
40代	3	51	35	44	128	5	133	15.4
50代	4	82	66	87	231	8	239	27.7
60代	9	67	68	87	223	8	231	26.7
70代	2	47	55	64	165	3	168	19.4
80代		6	10	22	37	1	38	4.4
90代			1	2	3	0	3	0.3
総数	19	269	253	323	839	25	864	100.0

(6) 次期会員管理システムの開発経過

次期会員管理システムの開発は、令和2年9月に要件定義報告があり、令和3年9月稼働に向け、順調に進捗している。次期会員管理システムは、基幹会員管理システム、Web 入会システム及びドキュメント管理システムをクラウド上で稼働する。

3. 調査研究及び提言事業

国内外の終末期における医療のあり方・選択、リビング・ウイル等に関する調査、研究及びこれらの情報・研究に基づいて社会への提言を行う事業

(1) 日本リビングウイル研究会

- ① 終末期のあり方に関して、医師、患者、関係者及び聴講者等の生の声に基づく情報収集や調査及び研究活動の場として、本部と支部で「日本リビングウイル研究会」を開催した。プログラムは、以下のとおりである。

部署	日程	内容
本部	令和2年11月28日(土)	<p>第9回日本リビングウイル研究会(オンライン会議)</p> <p>テーマ パンデミックと尊厳死</p> <p>—新型コロナウイルス感染症の世界的大流行のなかで、尊厳死はどう保たれるのか、コロナとどう共生していけばいいのか、医療の現場で活動する協会理事からの報告—</p> <p>開催方式 zoom</p> <p>挨拶 岩尾總一郎氏 (代表幹事)</p> <p>コーディネーター 満岡 聰理事</p> <p>報告(会報掲載順)</p> <p>満岡 聰理事 (医療法人満岡内科クリニック理事長)</p> <p>北村義浩理事 (日本医科大学特任教授)</p> <p>野元正弘副理事長 (愛媛大学客員教授)</p> <p>小川純人理事 (東京大学院准教授)</p> <p>長尾和宏副理事長 (医療法人裕和会理事長)</p>

部署	日程	内容
東北支部	令和2年10月18日(土) 13:30~16:07	<p>第7回日本リビングウイル研究会東北地方会</p> <p>会場 仙台市福祉プラザ「ふれあいホール」</p> <p>参加者 99名 (内訳 会員 49名、非会員 44名、事務局 6名)</p> <p>テーマ いまこそ、在宅医療</p> <p>第1部</p> <p>基調講演 いま、仙台の在宅医療</p> <p>講師 清水邦章氏(ひかりクリニック院長、仙台市医師会理事)</p> <p>第2部</p> <p>討論 望みの看取り—いまこそ、在宅医療</p>

		<p>コーディネーター 伊藤道哉氏(東北医科薬科大学准教授、支部理事)</p> <p>パネリスト 今野まゆみ氏 (ホームホスピスにじいろのいえ代表) 佐藤功子氏 (若林訪問看護ステーション所長) 佐々木伊津子氏 (介護福祉士)</p> <p>後援 宮城県、仙台市、宮城県医師会、仙台市医師会、宮城県看護協会、宮城県薬剤師会、宮城県社会福祉協議会、宮城県ケアマネジャー協会、河北新報社、仙台リビング新聞社、月刊誌りらく、みやぎシルバーネット</p>
四国支部	令和2年9月12日(土) 14:00~16:00	<p>第7回日本リビングウイイル研究会四国地方会 in 徳島 (徳島市共催 徳島市家族介護教室市民公開講座)</p> <p>※新型コロナウイルスの感染防止により、オンラインと会場参加を同時に行い、四国3県のサテライト会場でも視聴した。</p> <p>会場 徳島市医師会館、愛媛県医師会館</p> <p>参加者 徳島県 会場 33名、オンライン 18名 計51名 愛媛県 会場 36名</p> <p>第1部基調講演 最期まで自分らしく生きる～あなたはどう逝きたいのか? 見送りたいのか?～ 講師 長尾和宏協会副理事長</p> <p>第2部パネルディスカッション 進行 寺嶋吉保氏(医師、徳島県会長) パネラー 木下英孝氏 (医師、徳島県副代表) 大川由紀氏 (徳島市医師会訪問看護ステーション管理者) 長尾和宏協会副理事長</p>

(2) LW検討委員会 2020 からの答申

- ① 理事長の諮問機関として、外部有識者と協会役員からなる「リビングウイイル検討委員会」からの答申が、令和3年3月の理事会にて報告された。
- ② 答申の内容は、定款改定案、リビングウイイル改定案、協会の今後の戦略（理念の普

及啓発のための戦略・戦術)及び「尊厳死」「安楽死」に対する考え方(倫理的事項)等である。この答申については、令和3年6月の役員改選後の理事にて議論していく。

LW 検討委員会 2020 メンバー

(敬称略)

区分	氏名	肩書
内部委員	岩尾 総一郎	理事長
	長尾 和宏	副理事長
	野元 正弘	副理事長
	近藤 和子	理事
	満岡 聰	理事
	北村 義浩	理事
	小川 純人	理事
	神田 麻	理事
	白髭 豊	九州支部長
	外部委員	板井 孝彦郎
浜渦 辰二		上智大学グリーンケア研究所特任教授
市瀬 博基		筑波大学東京キャンパス非常勤講師
会田 薫子		東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター上廣講座特任教授
宇都宮 宏子		在宅ケア移行支援研究所 宇都宮宏子オフィス
西 智弘		川崎市立井田病院かわさき総合ケアセンター

(3) 死の権利協会世界連合

- ① 野元世界連合理事は、協会が加盟している世界組織「死の権利協会世界連合」(オブザーバーを含め世界26ヶ国、52団体)の加盟団体との現状把握、情報収集および情報交換を行った。直近では、スペインが欧州で4番目に安楽死と自殺ほう助を認める国となったことである。(AFPBB News, 2021/03/19)
- ② 死の権利協会世界連合世界大会は、メキシコで開催予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止より中止となり、次回開催先は未定となっている。

(4) ご遺族アンケート集計結果

令和2(2020)年(令和2年1月～同年12月)の「ご遺族アンケート」のがまとまり、会報No181号(令和3年4月)に掲載する。同アンケートでは、亡くなられた会員のご遺族675名からご協力をいただき、リビング・ウィルが役立ったか否かについては95%のご遺族がリビング・ウィルの効果を認めている。

<LWは受け入れられましたか> 675人からの回答

順位	相談項目	割合(%)
1	十分受け入れられたと思う	71
2	どちらかといえば受け入れられたと思う	24
3	分からない	3
4	どちらかといえば受け入れられなかった	1
5	全く受け入れられなかった	0
	計	100

<LWはご家族にとってどう意味をもちましたか>(複数回答)

内容	人数(人)
本人の意思の実現	413
家族の迷いを払拭	350
医師とのコミュニケーション	226
本人の安心	190
その他	54

<提示先は>(複数回答)

内容	人数(人)
病院担当医	375
看護師	154
在宅訪問医	130
施設の職員	102
かかりつけ医	100
施設医	97
救急隊員	24
その他	17

<提示時期は>(複数回答)

内容	人数(人)
入院/入所	285
普段から	168
体調悪化	124
終末期	88
植物状態	8

<提示方法は>(複数回答)

内容	人数(人)
口頭	334
カード	229
宣言書	94

(5) 提言活動

- ① 本部が主催した「第9回日本リビングウイル研究会(11月28日)」は、オンラインにて、「パンデミックと尊厳死」をテーマとして開催した。コロナ感染により、一気に悪化し、意識のないまま死に至る場合があるので、リビングウイルを残しておくことの重要性がいま改めて大きな意味を持ってきていると提言した。
- ② コロナ禍におけるリビングウイルの重要性について、ALS患者に対する嘱託殺人事件について、協会の考え方を会報とホームページに掲載した。
 - ・新型コロナウイルス感染症重症化に伴う処置について(2020年4月27日)
 - ・ALS患者に対する嘱託殺人事件報道に関する日本尊厳死協会の見解(2020年7月27日)
 - ・コロナ禍におけるリビング・ウイルの重要性について(2021年2月24日)
- ③ 令和3年3月24日(水)に「終末期における本人意思尊重を考える議員連盟」が、野田毅元自治大臣(自民党)を新会長に、172名の国会議員で再始動した。当日、鈴木裕也元副理事長が「国民の望む穏やかな看取りの実現に向けて」と題した講演を行い、法制化の必要性を強く訴えた。

4. 管理部門

(1) 「ウィズコロナ」時代の法人組織の見直し

11月28日開催の理事会にて、「ウィズコロナ」時代に向けて、デジタル技術を駆使した活動への比重を高める改革をすべきと決議し、法人業務の見直しを推進することとした。見直しにより、九州支部は3月末で支部事務所を解約し、北海道支部は6月末で事務所解約を予定している。

(2) 理事1名選任の件

6月8日の評議員会において、理事1名が選任された。

小野(神田) 麻氏 (弁護士)

(3) 寄付金の税制上の優遇措置

公益法人化と公益法人による新たな申請を行い、寄付・会費は税制上の優遇措置を受けることとなった。

① 所得税

- ・所得控除の認定は、4月1日から
- ・税額控除の認定は、7月13日から

② 住民税

- ・東京都の住民税控除の認定は、4月1日から

③ 褒章条例に基づく公益団体の認定

- ・褒章条例に基づく公益団体の認定は、8月12日から

(4) 収支決算

① 令和2年度は、経常収益は16,207万円、経常費用は14,837万円で、当期経常増減額は1,370万円であった。上記に指定正味財産増減額を加えた正味財産期末残高は、63,040万円となった。

② 引き続き、会員数の増強のみならず、公益法人としての新たな収入源の開発など、検討を重ねていく必要がある。

<年度別収支>

(単位：円)

項目	29年度	30年度	31年度	2年度	対前年
経常収益計	162,915,057	155,520,535	158,568,728	162,067,292	3,498,564
経常費用計	170,615,667	165,590,188	158,700,423	148,366,965	▲10,333,458
当期経常増減額	▲7,700,610	▲10,069,653	▲131,695	13,700,327	13,832,022
一般正味期末残高	624,050,573	613,980,920	613,849,225	627,549,552	13,700,327
指定正味期末残高	4,293,256	3,569,690	2,846,116	2,846,144	28
正味財産期末残高	628,343,829	617,550,610	616,695,341	630,395,696	13,700,355

<経常収益の源泉>

(単位：円)

項目	29年度	比重	30年度	比重	31年度	比重	2年度	比重
受取会費	156,182,000	95.9	148,606,000	95.6	147,570,000	93.1	140,785,200	86.9
受取寄付金	4,255,177	2.6	2,882,862	1.9	7,215,842	4.6	15,518,651	9.6
販売事業収益	1,092,363	0.7	1,545,546	1.0	2,681,347	1.7	1,555,098	0.9
講演料収益	806,600	0.5	1,132,510	0.7	314,530	0.2	30,000	—
その他	578,917	0.5	1,353,617	0.8	787,009	0.4	4,178,343	2.6
経常収益計	162,915,057	100.0	155,520,535	100.0	158,568,728	100.0	162,067,292	100.0

<受取会費の年度別>

(単位：円)

項目	29年度	30年度	31年度	2年度	対前年
正会員	76,955,000	77,605,000	82,542,000	82,595,200	53,200
夫婦会員	44,544,000	41,869,000	38,714,000	36,374,000	▲2,340,000
終身会員	12,508,000	9,644,000	9,208,000	7,034,000	▲2,174,000
減額会員	22,175,000	19,487,000	17,106,000	14,782,000	▲2,324,000
合計	156,182,000	148,606,000	147,570,000	140,785,200	▲6,784,800

<令和2年度受取会費の前受金処理>

(単位：円)

項目	前受金 計上前	前受金	差引後	30～31年度 からの実現	2年度 実績
正会員	83,168,200	▲5,398,000	77,770,200	4,825,000	82,595,200
夫婦会員	36,389,000	▲96,000	36,293,000	57,000	36,374,000
終身会員	7,034,000	0	7,034,000	0	7,034,000
減額会員	14,914,000	▲215,000	14,699,000	52,000	14,782,000
合計	141,505,200	▲5,709,000	135,796,200	4,989,000	140,785,200

<前受金累計残>

(単位：円)

項目	30年度残	31年度残	2年度残	前受金計
正会員	6,890,000	8,721,000	5,398,000	21,009,000
夫婦会員	36,000	36,000	96,000	168,000
終身会員	0	0	0	0
減額会員	76,000	115,000	215,000	406,000
合計	7,002,000	8,872,000	5,709,000	21,583,000

(5) 個人情報の法令順守

個人情報取扱事業者として、資料請求者や会員情報等の情報は、個人情報管理規程を遵守し、適切に取扱っている。

Ⅲ. 評議員会・理事会

令和2年度の開催は、次のとおりである。

▽評議員会

開催日	会議名	議題
令和2年6月 8日(土)	第12回定時評議員会 (決議省略)	<p><決議事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31(2019)年度事業報告及び収支決算承認 ・定款、規程の改正承認 ・理事1名選任(神田 麻理事)承認 <p><報告事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2(2020)年度事業計画、収支予算、資金調達及び設備投資の見込みについて、及び資金運用計画の件

▽理事会

開催日	会議名	議題
令和2年6月 1日(土)	第28回定時理事会 (決議省略)	<p><決議事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年(2019)度事業報告及び収支決算承認 ・理事1名選任承認 ・四国支部長選任承認 ・令和2年度内部監査計画承認 ・支部運営規程の一部改定承認 ・第12回定時評議員会を招集承認
令和2年7月 10日(金)	第29回臨時理事会 Zoomでは出席2名	<p><決議事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国支部の事務所移転承認 <p><報告事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表理事、業務執行理事の職務執行報告 ・会員へ継続意思確認作業を実施報告 ・協会45周年(2021年度)に向けて報告
令和2年11 月28日(土)	第30回定時理事会 (Zoom)	<p><決議事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ウィズコロナ」時代の法人業務の見直しについて承認 ・理事への委嘱業務、重要な使用人選任承認 ・令和2年度内部監査計画の変更承認 <p><報告事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度中間予測収支報告 ・終身会員への会員継続意思確認報告

		<ul style="list-style-type: none"> ・会報等新規返戻者の住所解明報告 ・次期会員管理システムの開発について(中間報告) ・令和2年度前期 LW 電話医療相談報告 ・代表理事、業務執行理事の職務執行報告
令和3年3月 13日(土)	第31回定時理事会 (Zoom)	<p><決議事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度事業計画、収支予算案及び資金運用計画方針承認 ・従たる事務所の廃止登記承認 <p><報告事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リビング・ウイル検討委員会からの提言報告 ・日本財団から「終末期医療に関する意思表示支援」の助成金が承認された報告 ・「ウイズコロナ」時代の法人業務の見直しの進捗報告 ・九州支部事務所廃止に伴う対応報告 ・令和2年度最終予測収支報告 ・協会45周年記念誌作成報告 ・尊厳死に関する国会議事録をホームページに掲載報告 ・代表理事、理事の職務執行状況報告

以上